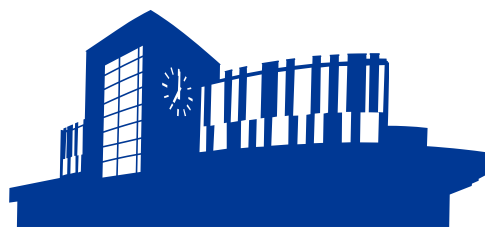
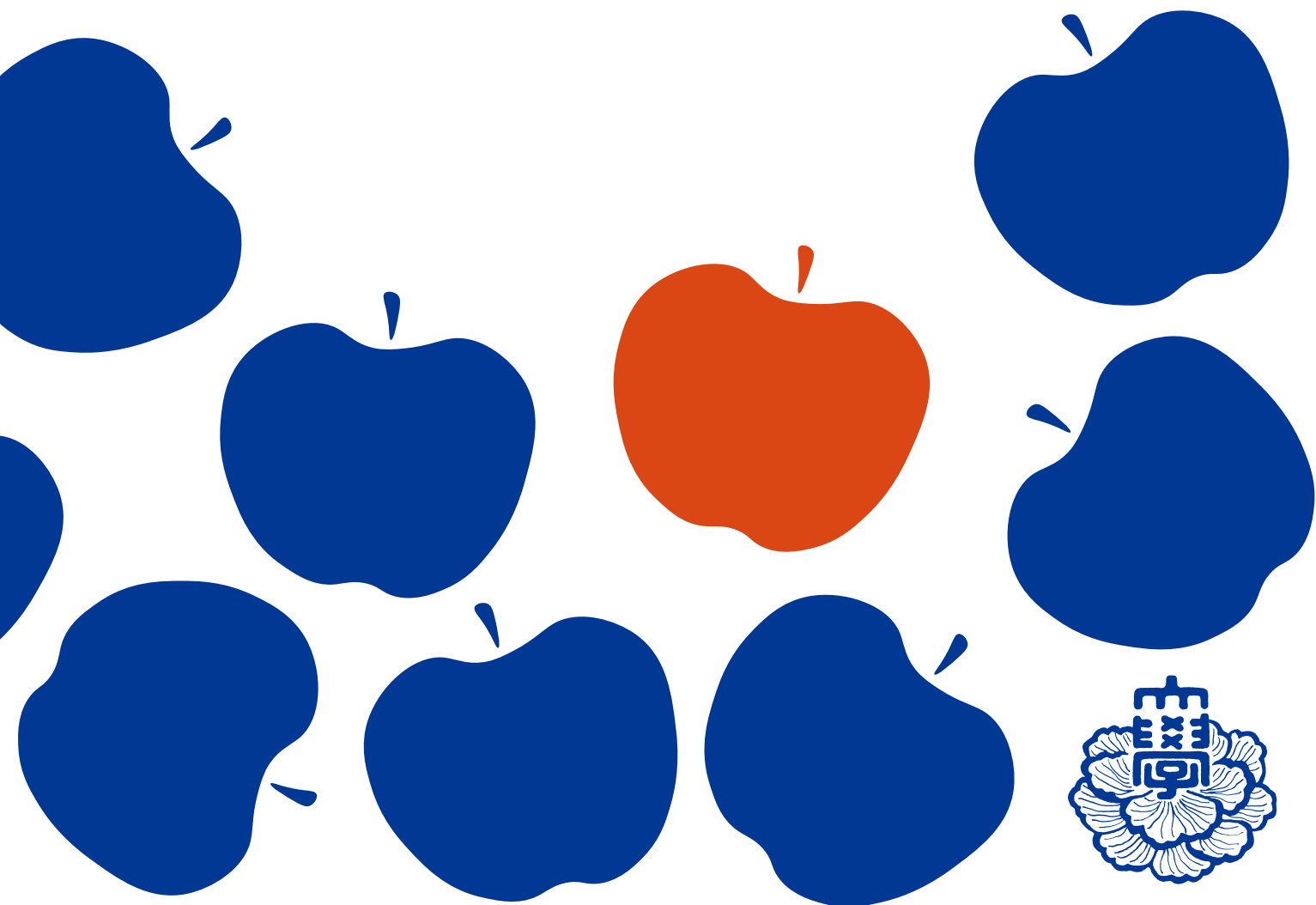


令和4年度



国立大学法人 弘前大学レポート
2022 HIROSAKI UNIVERSITY



学ぶ街は、 暮らす街でもある。

弘前は、程よい大きさの街です。
だいたいどこでも自転車で行ける、
気軽に自由な感じがとても好きです。
今ではお気に入りのルートもあって
季節の移り変わりを楽しんだりしています。
自分のペースで過ごせる街で
僕の大学生活は、充実しています。



国立大学法人

弘前大学

人文社会科学部／教育学部／医学部／理工学部／農学生命科学部

弘前大学ホームページ <https://www.hirosaki-u.ac.jp/>

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL.0172-36-2111 (代表)

01 | 学長メッセージ

01 | 学長メッセージ

02 | 弘前大学の
基礎データ03 | 新型コロナウイルス
感染症への取り組み

04 | 活動(主な取り組み)

- ①教育
- ②研究
- ③地域創生
- ④地域医療
- ⑤グローバル化

05 | 財務

- ①概況
- ②財務指標
- ③令和3事業年度
財務諸表
- ④寄附金による
事業のご紹介

弘前大学では2020(令和2)年度より、本学における財務状況と主な取り組み(教育、研究、地域創生、地域医療、グローバル化)をまとめた『弘前大学レポート』を発行しております。

本学の現状や前事業年度における活動内容をみなさまへより分かりやすく紹介することで、本学の業務運営や取り組みに対する理解を深めていただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、本学においても教育・研究活動を継続し、そして学生生活を支援するためのさまざまな取り組みを行いました。本誌ではその一部についてもご紹介いたします。

巻頭の写真は、本学のイメージポスター「学ぶ街は、暮らす街でもある。」です。「弘前市で暮らす」ということも、弘前大学の魅力のひとつです。

これからも「地域と共にある大学」として教職員が一体となって地域貢献のさらなる推進を目指して参りますので、みなさまにおかれましては、引き続きご支援賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人弘前大学長

福田眞作

学長プロフィール

ふくだ しんさく

秋田県出身。医学博士。弘前大学医学部卒。弘前大学大学院医学研究科修了。専門・研究テーマは消化器内科学。弘前大学医学部助手、医学研究科准教授・教授を歴任。2016(平成28)年4月から医学部附属病院院長及び学長特別補佐を務め、2020(令和2)年4月、第14代弘前大学長に就任。趣味は、釣り、ゴルフ、自宅の庭で樹木を育てること。



大学イメージポスター「学ぶ街は、暮らす街でもある。」

弘前大学で学ぶ。それは、弘前という街で大学生活を過ごすことでもあります。

適度なサイズ感で、豊かな自然や城下町の文化がある弘前。

ここに住む人々と共に地域の中で暮らすことは、学業のみならず人間性を磨くことにもつながる、という価値と魅力を端的に表現しています。

02 | 弘前大学の基礎データ

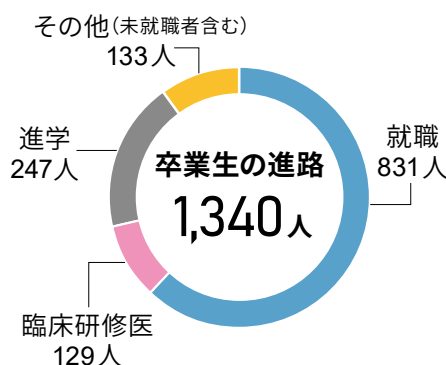
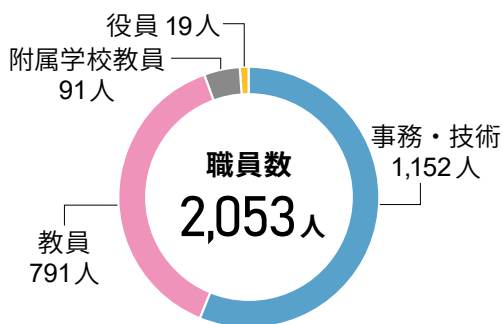
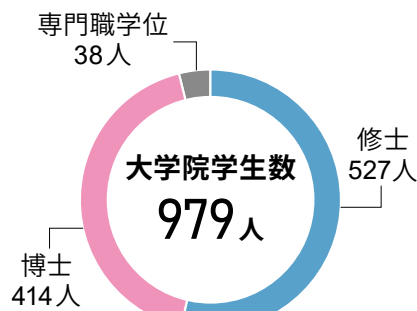
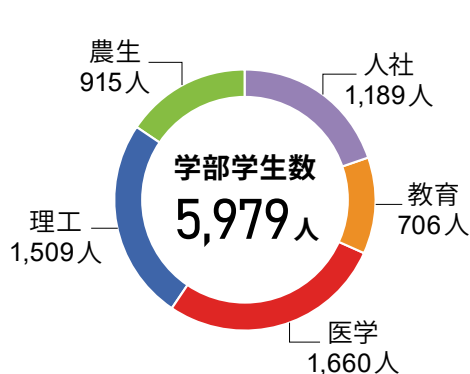
スローガン

世界に発信し、地域と共に創造する

弘前大学は、「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」をモットーに、総合大学の機能と特長を最大限に活用し、地域社会と密接に連携しながら、グローバルな視点に立った教育並びに基礎的、応用的、学際的研究を推進します。その創造的成果をもって、地域社会、国際社会に寄与することを基本理念とします。

学生数等

(2022(令和4)年5月1日現在)



国際交流協定

- 大学間交流協定 (54 大学等・22 か国)
- 部局間交流協定 (41 大学等・17 か国)

(2022(令和4)年5月1日現在)

留学生

- 弘前大学からの留学生 (3名・2か国や地域)
- 弘前大学への留学生 (193名・20か国や地域)

(2021(令和3)年度実績)

附属病院関係

- 診療科数 (34 診療科)
- 病床数 (644 床)

(2022(令和4)年5月1日現在)

徽章



青森県の津軽地方を支配した大名「津軽氏」は、家紋として「津軽牡丹」を用いていました。その弘前城下にある弘前大学の徽章は、「牡丹」の花がモチーフとされています。

ロゴマーク



弘前市が全国に誇れる「桜」をモチーフにし、5学部の桜の花が集結し、未来に向けひとつ大きな花を開花させるというイメージを図案化しました。

シンボルカラー

スクールカラー



開学以来、伝統的に用いられてきた鮮やかな藍がかった青色、群青です。

学部カラー

				
人文社会科学部	教育学部	医学部	理工学部	農学生命科学部

弘前大学 学生歌

新制弘前大学になって、本学にも校歌が必要との声があがり、弘前大学学生歌は、昭和35年頃に当時の文理学部の井上豊教授が作詞を、教育学部の前田卓央教授が作曲をそれぞれ担当し、完成したものです。昭和44年に、弘前大学入学式において、当時の教育学部の安達弘潮先生の指揮で弘前大学フィルハーモニー管弦楽団により初めて演奏されて以来、春季の入学式及び学位記授与式での演奏が続いています。

弘前大学 学生歌

井上 豊 作詞
前田 卓央 作曲

一、道遠く 極まるころ
雪とけて 霞む山なみ
花ひらく 古城のさくら
緑こき 津軽のひろ野
行く水も 音さわやかに
若人の 心ぞ清き
こぞりたたえん 青春の日を
こぞりたたえん 青春の日を

二、星光り 月明らかに
秋たけて もみじ血にもゆ
学びやも 雪に埋れ
おのがじし 思いは深く
世のうつつ きびしけれど
若人の 望みは高し
ともにうたわん 弘大の意気
ともにうたわん 弘大の意気

弘前大学公式 HP・SNS 情報



公式 HP



HIROMAGA



Twitter



Facebook



Instagram



YouTube

03 | 新型コロナウイルス感染症への取り組み

新型コロナワクチン職域接種の実施

2021(令和3)年6月初め、日本国内では「打ち手」不足によりワクチン接種が進まない中、その状況を打破するため、大規模接種会場や病院ではなく、職場でワクチン接種を行ういわゆる「職域接種」が始まりました。

本学では、国から要請を受ける前から、学生・教職員を対象としたワクチン接種を独自に検討していたため、「職域接種」の募集が始まってすぐに準備に着手することができ、6月27日には第1回目のワクチン接種を開始しました。

実施までの準備期間はわずか3週間あまり。ワクチンの確保、学生・教職員への接種希望調査、接種予約システムの設置、接種会場の準備、必要物品の調達など、ワクチン接種にかかるさまざまな業務を通常業務と並行して行う必要があり、医学部附属病院の医師・看護師等をはじめ、各部局等の教職員が業務分担して準備を進め、大学一丸となって取り組みました。



また、本学の学生・教職員だけではなく、「大学コンソーシアム学都ひろさき」に加盟する4大学の学生・教職員も含めたワクチン接種を実施しました。地域の接種拠点として、感染予防や各自治体における一般接種の負担軽減につながったほか、学生の夏季休業を前に2回の接種を終えることで、帰省などを控えた学生の感染拡大防止に寄与しました。

この取り組みは、文部科学大臣(当時)の定例記者会見でも好事例として取り上げられたほか、全国メディア(スッキリ(日本テレビ系列)やnews23(TBS系列)など)でも大きく報道されました。

また、2022(令和4)年3月には卒業生を含めて3回目の接種を実施し、4月からの新生活に備えました。



ライブ配信による大学行事の実施

コロナ2年目となった2021（令和3）年度は、大学行事にもさまざまな形でオンラインが導入されました。8月のオープンキャンパスは2年連続のウェブ開催となり、動画による本学の紹介やウェブ対話方式の模擬講義・相談会など約3,300名のみなさまにご視聴いただきました。

そして、一昨年はコロナのため中止となった10月の総合文化祭は、事前登録による学内者の来場と動画配信によるライブリッド開催となりました。当日はステージイベントがリアルタイム配信された他、現地では万全の感染対策中、人気企画「よさこい in 弘大」が行われるなど、会場では多くの観客からの拍手に包まれました。

3月の学位記授与式では、出席できなかった卒業生・修了生や来場いただけなかった保護者の皆様などに向けてライブ配信を実施。本学大学院医学研究科に在学する女子スキージャンプ選手の高梨沙羅さんからはなむけのメッセージが贈られました。



総合文化祭では人気企画「よさこい in 弘大」を開催



弘前大学大学院学位記授与式の様子

地域の企業様からの学生向け食支援事業

学生の生活に欠かせない食支援、2021（令和3）年度もたくさんの企業様からご支援をいただきました。その一部をご紹介します。



JAグループ青森様から青森県産米の提供（約5t）

2021（令和3）年6月、JAグループ青森様より、受取を希望した学生2,613人全員に青森県産米「つがるロマン」（一人につき2kg）を寄贈していただきました。昨年度の支援分を合わせると、10tにもものばるご支援となっています。



ライオンズクラブ国際協会332-A地区様から非常食の提供（4,000食）

2021（令和3）年12月、ライオンズクラブ国際協会332-A地区様より、コロナ下の学生支援として非常食4,000食（五目ごはんやドライカレー等）を無償でご提供いただきました。



丸大堀内株式会社様からあおり藍茶の提供（480本）

2021（令和3）年12月、丸大堀内株式会社様より、弘前大学との共同研究により開発された「あおり藍茶」480本を無償で提供いただきました。文京町地区では、100円夕食時に学生への配布を行いました。

04 | 活動（主な取り組み）

①教育

地域と連携した教育活動への取り組み

地域の美術館と連携した教育活動への取り組み

教育学部では、2020（令和2）年度より初等中等教育専攻中学校コース美術専修の基礎科目として「現代美術演習」を開講しています。この授業は、弘前れんが倉庫美術館からの寄附講義によるもので「現代美術の基礎知識を学ぶとともに、新進のアーティストから作品制作の手法や思考方法を実践で学ぶことで、受講生が同時代の文化芸術を愛し、学識を深め、表現の領域を広めること」を目的としています。

美術教育の現場では、鑑賞教育やワークショップなど単発的に美術館を活用したものが定番となっていますが、15回の授業を全て美術館で実施するというのは、全国的に見ても稀なケースです。学生にとってこの授業は、美術館というアート空間を肌で感じながら、現代の美術を実践をとおして学ぶことのできる貴重な機会となっています。

2021（令和3）年度の授業では、美術館スタッフによる講義やワークショップのほか、当時開催されていた「りんご宇宙展」の鑑賞と、出展作家の河口龍夫氏によるレクチャー（リモート）などが実施されました。受講生たちからは「あまり馴染みのなかった現代の美術が身近に感じられるようになった」、「現代のアート界の仕組みがわかって、とても興味深い授業だった」、「展示してある作品について作家本人からの解説を聞いて、さらに感動した」という声が聞かれました。



授業の様子

地域の人材や資源を活用した実践的な授業の実施

人文社会科学部では、地域に豊富に存在する民俗資料の点検と資料館展示の立案に学生を主体的に参画させる教育プログラムを開発して実施しています。また、教員の指導の下、学生が中心となって地域の郷土資料館における考古学資料の展示方法や内容を検討するなど、民俗学・博物館学、考古学の専門にもとづく社会貢献型教育であり、地域資源を活用した実践的教育を高度化しています。学生が関わった資料館はいずれも展示内容の充実が図られ、リニューアルオープンにもつながっています。

医学部保健学科検査技術科学専攻学生が「日臨技学生表彰 会長賞」受賞

2022（令和4）年3月、保健学科検査技術科学専攻4年（細胞検査士養成コース）の丸山裕也さんが「日臨技学生表彰 会長賞」を受賞しました。

この賞は、学業成績が優秀で、かつ他の学生の規範になると認められた者を学校で推薦し、一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会（日臨技）から認められ表彰されるものです。

丸山さんは学業成績が優秀で、かつ2021（令和3）年6月開催の第62回日本臨床細胞学会春期大会での学会発表の業績、細胞検査士資格認定試験の合格等で他の学生の模範となることが認められ本賞の受賞となりました。卒業後は弘前大学医学部附属病院病理部に勤務し、臨床の現場と研究の場で活躍する臨床検査技師になることが期待されています。



学寮生の学修及び生活環境向上に向けた取り組み

学寮の一人部屋改修及びエアコン設置

学寮のうち北鷹寮及び朋寮については、2人で部屋を共用する仕様でした。2人部屋居室は、新型コロナウイルス感染症を含む様々な感染症の感染予防対策をとることが難しいこと及びメディア授業や就職活動のオンライン化など、学生の学修環境の変化にも対応した施設としていく必要があることから、一部を除き1人部屋用の居室として改修を行いました。

これにより、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなど感染症流行時の感染リスク低減を図り、安心安全な居住環境及びオンライン化にも対応した学修環境を提供できるようになりました。

また、この2寮にはエアコンが設置されていませんでしたが、近年夏の猛暑が続いていることもあり、学生からは、エアコンを設置してほしいとの要望が出されていたことから各居室及び共有スペースにエアコンを設置しました。冬期間はガスボイラー暖房で使用時間の制限がありましたが、エアコン設置により常時暖房を利用できるようになりました。

これにより、生活環境を大幅に改善することができました。



教育の質の向上に向けた取り組み

入学試験志願倍率の向上

2022(令和4)年度入試では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う措置として、一部の学部等を除き調査書及び志望理由書の段階的評価を実施しないことなど、出願書類の取扱いを変更し4月にホームページで公表したほか、県内主要高校を直接訪問して内容の説明を行いました。また、志願者状況や高等学校側からの意見を検証し、複数の学科に進学意欲を持つ志願者に広く進学機会を与えるため、理工学部的一般選抜(前期日程)において第2志望選抜を導入、また、農学生命科学部の一部学科の選抜ごと募集人員の変更及び一般選抜(後期日程)での小論文試験の配点変更を行いました。

さらに、持続的な志願者確保と受験者の利便性向上の観点から、仙台市への学外試験場設置について検討を行い、2022(令和4)年度入試から仙台地区試験場を新設することとし、全国の高校へポスター・チラシの配付を行い周知するなど、入試広報活動を強化して行いました。

この結果、2022(令和4)年度入試の一般選抜(前期日程・後期日程)の志願者数は募集人員897人に対して志願者4,119人、志願倍率は4.6倍と、第3期中期目標期間において最高となり、昨年度の2.9倍から大きく盛り返すことができました。

弘前大学
令和4年度入試 一般(前期)
仙台に試験場を新設!

令和4年度
一般選抜
(前期)

試験日: 令和4年2月25日(金)
弘前地区: 弘前大学他
札幌地区: 札幌コンベンションセンター
仙台地区: TKPガーデンシティ仙台
〒980-8130 宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 AER 21F・30F
アクセス: JR東北本線 仙台駅 西口 徒歩2分

●学外試験場で受験可能な学部等
人文社会科学部・医学部保健学科・医学部心理支援科学科・理工学部・農学生命科学部
※総合学部(一般選抜(後期))では学外試験場がありません。
※教育学部・医学部医学科は学外試験場で受験できません。
※試験地・試験会場に関する情報は入試要項(0172-39-3122)までお問い合わせください。

弘前大学受験に関する情報は入試情報HPから <https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp>

仙台地区試験場ポスター

04 | 活動（主な取り組み）

② 研究

弘前大学 COI「国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 報告書」に「優秀事例」として掲載

国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) による報告書に、弘前大学 COI の取り組みが優秀事例として掲載されました。「テクノロジーがどのように高齢者の健康と Well-being を向上させることができるかを示している」と紹介されています。

同報告書は、中国、日本及び韓国において、高齢化社会の問題を解決するための技術開発促進策について取りまとめたものです。弘大 COI の取り組みは「高齢化に関するマドリッド国際行動計画」実装にむけたテクノロジー活用事例のうち、高齢者の健康・well-being の優秀事例として掲載されました（掲載事例 14 例のうちの一つ）。弘大 COI が 15 年以上継続している岩木健康増進プロジェクト（岩木健診）と、健診で集めたビックデータの活用事例が評価されています。

岩木健診は、毎年約 1,000 人が参加して 3,000 項目を継続的に調査しており、そのビックデータを解析することで認知症や生活習慣病などの早期発見、予兆・予防方法の開発などを導き出すプロジェクトです。国連サミットで採択された SDGs（持続的な開発目標）に貢献する取り組みとしても評価されました。弘大 COI の取り組みが国際的評価を受けたのは初めてで、長年の取り組みを世界で役立てるための新たな一歩となりました。



Report_Leveraging-Technology-fional-Plan-of-Action-on-Ageing

弘前から昆虫学をリードする！トノサマバッタの昆虫食としての活用

気候変動や人口増による食糧危機が大きな問題となっています。解決するための手段として、家畜と比べて温室効果ガスの発生が少なく、高い栄養価を備える昆虫食・昆虫飼料が注目を集めています。

農学生命科学部の管原 亮平 助教が研究対象としているのはトノサマバッタです。トノサマバッタは、イネ科の雑草や牧草などで飼育可能であり、農業生産との親和性が高く、青森県の新しい特産品になる可能性を秘めています。

管原助教は、トノサマバッタの活用に関して、①飼育条件やエサの最適化、②栄養成分、③普及のための理解増進、④ビジネス上の課題解決に関する研究を行っています。

これまで食料として活用してこなかった生物を用いて、持続可能な食料生産の実現をめざす研究が進んでいます。昆虫は栄養価にも優れていて、生産においても既存の食料に比べ、はるかに環境負荷が少ないため、有望視されています。昆虫食は、地球規模の大問題を解決するための手段としてますます注目が高まっています。

この取り組みは、研究紹介動画としても取り上げられています。ぜひ、ご覧ください。



研究紹介動画
<https://youtu.be/J34ifltzNE4>



弘前大学のユニークな研究を紹介「ひろだい探偵団」

弘前大学研究・イノベーション推進機構では、2021（令和3）年5月31日から、陸奥新報紙面にて「ひろだい探偵団」の連載を開始しました。「ひろだい探偵団」とは、毎日の暮らしの中で疑問に思うことを科学で解明するとともに、弘前大学のユニークな研究を紹介し、紙面掲載後は特設サイトでも公開しています。



「ひろだい探偵団特設サイト」



福田学長研究紹介「あなたの腸内細菌は元気ですか」

2022（令和4）年3月21日に掲載された第9回目では「あなたの腸内細菌は元気ですか」と題し、福田眞作学長の研究を紹介しています。株式会社ヤクルト本社との共同研究により、乳酸菌の約8%が回腸末端に生きたまま到達していることを、人の体で初めて証明しました。また、摂取した乳酸菌が数時間にわたって回腸末端の細菌構成の90%以上を占めていたことも解明。回腸末端には免疫細胞が多いことから、乳酸菌が免疫機能に良い影響を与えている可能性が高まり、乳酸菌の驚くべき姿を解明した大きな成果です。

福田学長からは、「研究を続けていくための原動力は「好奇心」。何気ない疑問に好奇心を持ち続けることで、一つの疑問が解かれてもまた次の疑問が出てきます。それらをクリアしていった時、大きな発見につながることもあります。」とのメッセージが寄せられています。

また、紙面に掲載されている教員のイラストは、本学教育学部の学生が担当しています。その一部をご紹介します。



04 | 活動（主な取り組み）

③地域創生

青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業の実施

青森県の地域課題である「短命県返上」に向けて、学長が青森県に対して新たな施策の提案を行い、青森県との連携事業である「青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業」を展開しました。

学長をはじめとして、青森県医師会長、県内市町村の首長2名、青森県総合健診センターの代表者、青森県保健所長会の会長、市町村保健師の代表者、青森県健康福祉部長、がん検診・がん医療の有識者で構成される会議体において検討を重ね、2021（令和3）年11月に「青森県における科学的根拠に基づいたがん検診の要綱案」を策定し、青森県知事に提言書を提出しました。2022（令和4）年3月には、青森県が要綱案・提言に基づいて県要綱として取りまとめました。今後、関係機関が一丸となって、がん検診事業の浸透と適切な精度管理を行い、青森県のがん死亡率低下を目指すこととしています。



地域の自治体等との包括連携協定の締結

2021（令和3）年度は6月に階上町、7月に三戸町との包括連携協定を締結しました。累計締結数については、中期計画に掲げている目標値26件（2015（平成27）年度17件の1.5倍）を第3期中期目標期間の早期（2018（平成30）年度）に達成していることに加え、最終的には目標値を大幅に上回る2015（平成27）年度の約2倍となる32件となりました。

階上町とは「階上早生そばの地域ブランド推進事業」、三戸町とは「三戸町における中長期的気候変動と作物の生育」の共同研究・受託事業をスタートしています。



階上町



三戸町

県内市町村との連携調査研究事業の実施

包括連携協定を締結した県内市町村との特色ある連携事業として、各市町村が直面している地域課題を解決することを目的とした「連携調査研究事業」を展開しました。本事業の件数は、事業をスタートさせた2016（平成28）年度の4件から、4年目終了時の2019（令和元）年度は3.5倍となる14件、更に2020（令和2）年度は15件、2021（令和3）年度は13件と3倍以上の水準に大幅に増加しました。2020（令和2）年度以降の成果として、青森県平川市では市所蔵文化財の整理・データベース化及び適切な保管や展示方法を本学の知見を活用して進め、2020（令和2）年度に平川市郷土資料館のリニューアルオープンに繋がったこと、また、青森県田子町では、地元産品のニンニクについてDNA情報を用いた品種識別方法の特許出願を2021（令和3）年度に行ったことなど、地域課題の解決に向けた各市町村の取り組みに本学が大きく貢献しています。



平川市郷土資料館

青森県内市町村と連携した地元産品による食支援

本学と包括連携協定を締結している県内市町村と連携した学生支援事業として、コロナ禍で経済的に困窮する学生に対する「各市町村の地元産品を活用した食支援」を本学が企画・立案して実施しました。実施財源については、本学の寄附金（弘前大学基金）と各市町村からの拠出金を活用しています。2021（令和3）年度は15市町村、本学と連携協定を締結している全ての県内市町村が参加しました。地元産品の提供は、①産品パッケージによる提供（全学生の約30%を占める1,800人分）、②学生食堂を通じた提供の2パターンで実施しました。



三戸町



平川市

大学発 地域振興券の発行による学生支援

新規の事業として2021（令和3）年度に、コロナ禍における学生支援及び地域産業の活性化を目的として、青森県弘前市内の高等教育機関で構成される「大学コンソーシアム学都ひろさき」の枠組みにより、学生が生活雑貨も購入できる「大学発 地域振興券」を発行しました。額面5,000円／冊を学生が2,000円で購入できる振興券を全体で4,811冊発行しました。実施にあたっては、本学が事業を企画・立案し、また、各高等教育機関及び弘前市と調整を図るなど、主導的な役割を果たしました。

04 | 活動（主な取り組み）

④ 地域医療

女性アスリート外来の新設

附属病院では2021（令和3）年4月に整形外科、産科婦人科、リハビリテーション科が合同で、県内初の「女性アスリート外来」を開設しました。2026（令和8）年には青森県で第80回国民スポーツ大会（現国民体育大会）が開催予定であり、県内でも多くの女性アスリートが活躍しています。本外来の目的は「年齢、競技レベルを問わず、スポーツをする全ての女性が、楽しく健康で長く競技生活を送ることが出来るように」整形外科医、産婦人科医、リハビリテーション科医、管理栄養士、理学療法士などがチームとなり、一人の選手を包括的にサポートすることです。本外来のメリットは、通常であれば複数の科で対応が必要となる場合も、複数の科の医師（希望があれば女性医師）が、チームで対応していくということです。具体的には、「女性アスリートの三主徴」として知られる利用可能エネルギー不足、無月経、骨粗鬆症を主軸として、月経の問題（無月経やコンディショニングのための月経調整、月経困難症など）やスポーツ貧血、体重管理、食事に関する相談、疲労骨折など身体の痛み、ドーピング薬、周産期・産後のスポーツに関する相談などについて幅広く対応したいと考えています。アスリートは身体の痛みで整形外科を受診することが多いと思いますが、実は月経トラブルを抱えている、月経の悩みを周囲に相談しづらい、婦人科を受診する勇気がないというアスリートもいると思います。多くのアスリートが気軽に受診し、一人一人に合わせて、競技種目特性を考慮した治療選択や、試合や練習日程に配慮した診療を心がけていきたいと思っています。また今後、小中高生のスポーツ現場を訪問し、女性アスリートの問題について情報を提供し、より気軽に相談できるようにメール相談の開設などを検討しております。



女性アスリート外来

東北初のHAL 拠点病院に認定、加えて新たなリハビリテーションロボットを導入

附属病院では、2017（平成29）年以降、弘前市が掲げる「健康都市ひろさき」の実現に向けたひろさきライフノベーション事業の支援を受け、リハビリテーションロボットの導入を進めてきました。

2021（令和3）年4月1日にこれまでの実績が認められ、HAL（Hybrid Assistive Limb）拠点病院に認定され、地域の中心となってHALの普及促進を図るとともに、より質の高いリハビリテーションをより多くの患者に届ける役割を担っています。

さらに、2021（令和3）年11月には弘前市の補助を受け、手指用リハビリテーションロボット「AMADEO」、上肢用リハビリテーション・体幹コントロールトレーニングシステム「PABLO」・「TYMO」を新たに導入しました。AMADEOは手指運動に特化したロボットで、手指の他動・自動運動を行うことで関節可動域や筋力を改善するようなプログラムが組み込まれています。PABLOはハードセンサーにて握力強化や力の調製を行うようなプログラムおよびモーションセンサーにより3次元的な動作評価やトレーニングを行うことが可能です。TYMOはセラピープレートと呼ばれる過重分圧や重心移動が評価できるプレートを使用することで、座位・立位バランス能力の練習を行うことができます。

2019（平成31）年に導入していた肩関節をリハビリできる「DIEGO」に加え、新たなリハビリテーションロボットを導入したことにより、「AMADEO」にて手指、「PABLO」にて前腕・手関節と、上肢全体をリハビリテーションロボットにて治療できるようになりました。

実際に使用した患者様からは「自分自身の足りない部分を認識することができる」、「ゲームを通して動作の円滑さが改善していくのがわかる」といった感想が上がっています。

ロボットリハビリテーションによる運動機能回復の実現とその治療期間の短縮は、より質の高い生活・社会活動への早期復帰を強力に後押しし、健康寿命の延伸により本県の最大関心事である短命県返上へも有力な戦略となり得ます。加えて医療効率の向上は、医療格差や医師不足など地域医療が抱える課題に対しても解決策として期待されます。



リハビリテーションロボット

新型コロナウイルス感染症陽性者への電話診療を実施

2022（令和4）年1月中旬から弘前保健所管内で新型コロナウイルス感染症陽性者が爆発的に増加したことに伴い保健所の業務が逼迫したため、当院から保健所へ支援を申し出て、陽性者に対する電話診療及びトリアージ（対面での医療機関受診必要性の判断）を行いました。電話診療は1月21日から3月8日までに20日間実施され、合計で1,554名の診療を行いました。

陽性者は外出することが難しいため、本取り組みでは弘前市薬剤師会と連携することで、院外処方された薬を陽性者の自宅へ配達してもらうことが可能となり、適切な医療を地域住民へ提供することができました。



新型コロナウイルス感染症にかかる医療従事者の派遣

青森県等の自治体からの要請により、医療機関等で発生したクラスターに対応するため、県内10施設へ本院の医師、看護師等スタッフを延べ45名派遣しました。

また、院外で実施された新型コロナワクチン接種へ医師・歯科医師・看護師を派遣しました。大学ワクチン一括接種の間診と打ち手として医師・歯科医師を延べ143名、看護師延べ394名、黒石市ワクチン接種に問診医師として医師を延べ60名、青森県広域接種弘前会場の間診医師として医師を延べ96名派遣し、地域のワクチン接種の促進に貢献しました。

区分	期間	派遣医師・看護師	
		職種	延べ人数
大学ワクチン一括接種			
1・2回目	令和3年6月27日～8月11日（36日）	医師・歯科医師	103名
		看護師	252名
3回目	令和4年3月5日～27日（8日）	医師・歯科医師	40名
		看護師	142名
小計			537名
黒石市ワクチン接種			
1・2回目	令和3年6月14日～7月21日（30日）	医師	60名
青森県広域接種（弘前会場）			
1・2回目	令和3年9月25日～11月14日（16日）	医師	96名
計			693名

ワクチン接種派遣状況

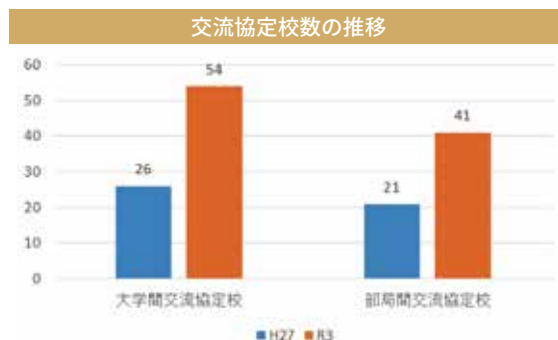
04 | 活動（主な取り組み）

⑤ グローバル化

海外研究機関とのネットワーク形成と国際交流を推進するための取り組み

海外研究機関とのネットワーク形成

海外研究機関とのネットワークを形成し、また強化するために、海外協定校の新規開拓や部局間交流の推進に取り組んでいます。2021（令和3）年度は、新たに1機関と大学間交流協定を、4機関と部局間交流協定を締結し、大学間交流協定校が54機関、部局間交流協定校が41機関へと増加しました。これらの協定においては、教職員及び学生の交流に加えて、学術共同研究の実施、学術上の各種資料や情報の交換、国際会議や講演会の共同開催等を行うこととしており、世界各国の研究機関と大学間交流協定や部局間交流協定を新たに締結することにより、これらの活動がより一層促進されることが期待できます。「世界に発信し、地域と共に創造する」という弘前大学のスローガンに謳われている「世界への発信」力の強化には、海外研究機関とのネットワークの形成を含めたグローバル化の推進は必要不可欠といえます。今後も海外協定校の新規開拓や部局間交流の推進を継続していきます。



国際交流の推進

コロナ禍においても、学生の学術研究活動の国際化を推進するため、オンライン国際学会に参加する学生及び指導教員に対し、参加費支援事業を実施しました。

また、大学間交流協定や部局間交流協定に基づく学生交流の一環として、2020（令和2）年度に開南大学（台湾）を対象にオンラインプログラムを実施し好評を博したことから、2021（令和3）年度は台湾の協定校5大学を対象を拡大して実施しました。プログラムは、地域の語り部や津軽塗工房からゲストスピーカーをお招きしての日本文化の授業、郡教育担当理事（日本語学）による特別授業から構成され、12名の学生が聴講し、教職員・学生の国際交流を推進しました。

加えて、弘前大学への留学生数を増やすことを目的として「日本留学フェア」をはじめとするオンラインイベントにも参加しました。英語版のみならずスペイン語版にも参加し、世界に向けて本学の魅力を発信しました。

これらの活動のほかにも、教職員は弘前大学のグローバル化を促進するために海外機関及び研究者との交流や草の根活動に日々取り組んでおり、大学全体として国際交流を推進しています。



台湾協定校向けオンラインプログラムの様子

学生の国際性を高めるための取り組み

オンラインを活用した国際交流

2021（令和3）年度もコロナ禍にあり海外渡航ができない状況でしたが、オンラインを活用した国際交流を推進することにより、学生の国際性を高める取り組みを継続しました。

海外渡航を伴わない新たな国際交流の可能性を探るため、日本人学生を対象に海外協定校等が実施するオンラインプログラム受講料の支援を行い、56名が受講したほか、海外協定校から提供のあったオンラインプログラム（無料）を12名が受講しました。海外留学経験のない学生や、これまで渡航を伴う留学に参加することが少なかった医学部医学科の学生の受講もあり、新たな国際交流のツールとして、オンラインを活用した留学プログラムの受講支援を継続し、日本に居ながらにして本学学生の国際性の涵養を図るとともに、今後も協定校との交流を促進していく予定です。

また、2020（令和2）年度に初めて実施したオンライン国際交流プログラム「Coffee Hour」を発展させ、2021（令和3）年度は「グローバルアンバサダー」を実施しました。本学学生11名が、半年間に渡って、カナダ、韓国及びイタリアの協定校の学生34名と、毎週マンツーマンのオンライン交流を通して学んだことをポスター発表し、国際感覚を高めるとともに学内に海外の情報を発信しました。



グローバルアンバサダーの活動の様子

日常からの国際交流

これまで留学生専用だった「国際交流会館」に、2022（令和4）年4月から日本人学生も入居することができるようになりました。同じ建物の中で多様な国の入居者とともに生活することで、日常からの国際交流を通して国際的な感覚を高めることができる環境を整備しました。建物としてはもちろん、2人用シェアタイプの部屋もあり、入居者自身のペースで国際交流することができます。

また、2020（令和2）年度に交換留学生を対象として実施し好評だった体験型観光を、全学生向けに実施しました。青森市ではねぶたの家ワ・ラッセ及び青森県立美術館を訪問し、ねぶた文化や青森出身の芸術家の作品への理解を深めたり、浅虫水族館をグループで見学したり、西目屋村では水陸両用バスから白神山地の自然を満喫し、白神焙煎舎では白神山地の水で淹れるコーヒーの焙煎過程を見学、ブナコ西目屋工場では青森県産のブナを有効活用するために開発された独自のユニークな製法で作られる木工品「ブナコ」への理解を深めるなど、地域のことを学ぶとともに、日本人学生と留学生が交流できる大変貴重な経験となりました。



05 | 財務

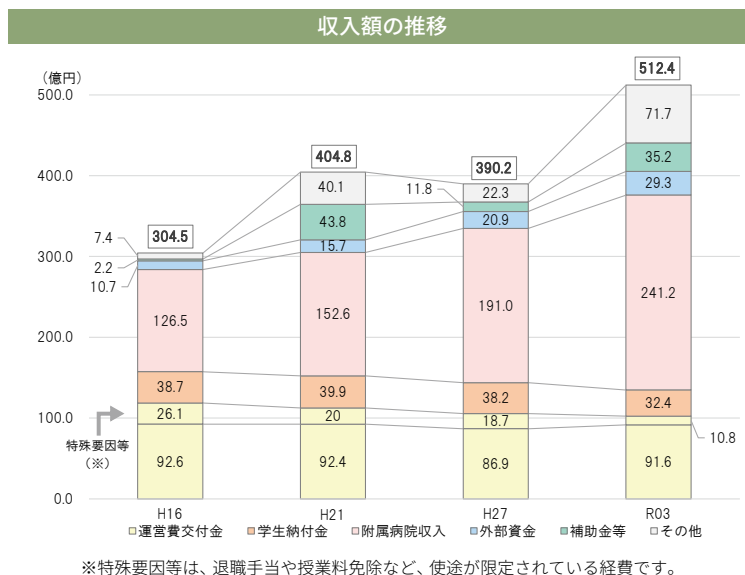
① 概況

1 弘前大学の収入『運営費交付金は減少、財源の多様化など財政基盤の強化が必須』

令和3年度(第3期中期目標期間最終年度)の大学全体の収入額は512億円となっており、平成27年度(第2期中期目標期間最終年度)と比較すると122億円増加しています。その大部分は、附属病院の経営努力による附属病院収入の増加によるものです。また、令和3年度は、病棟の新営や医療器械整備の財源として47億円の借入れを行ったことにより、その他の収入が増加しています。

学生納付金収入は、令和2年度の修学支援新制度の開始に伴い、授業料等の免除額が増加したこと、並びに令和4年度授業料の前受けを中止したことに伴い減少しています。

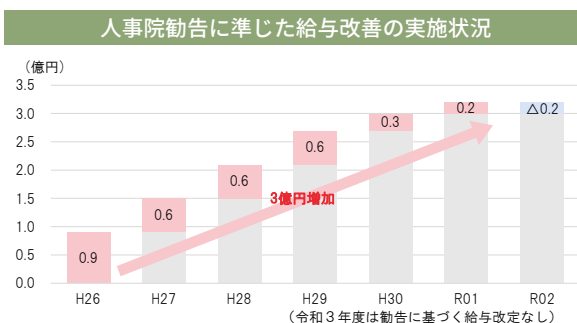
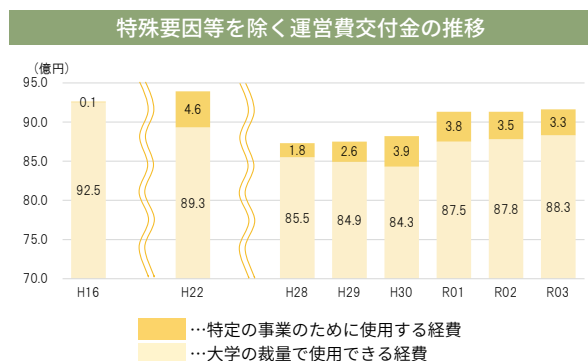
平成16年度の国立大学法人化以降、受託研究や寄附金等の外部資金収入が増加傾向にある一方、国からの運営費交付金は減少傾向となっています。



2 運営費交付金『新たな配分の仕組みにより大学の裁量はやや拡大するも…』

運営費交付金のうち、退職手当や授業料免除などの特殊要因等に係る経費のほか、特定の事業のために交付される機能強化促進分などを除いた経費が、大学の裁量で使用できる運営費交付金となります。第3期中期目標期間においては、大学の主体的な取り組みを一層後押しするべく、令和元年度から成果を中心とする実績状況に基づく配分の仕組みが導入されたことで、運営費交付金の基幹経費化が進んでいます。

一方、本学における基幹経費の多くは人件費に充当されています。本学では、人事院の給与勧告に準拠し教職員の給与水準を決定しており、勧告に基づく直近8年間の人件費への累計影響額は約3億円(附属病院を除く)となっています。今後は、働き方改革の推進に向けた取り組みも必要となることから、引き続き給与勧告の動向を注視しつつ、組織的な人事戦略が求められます。



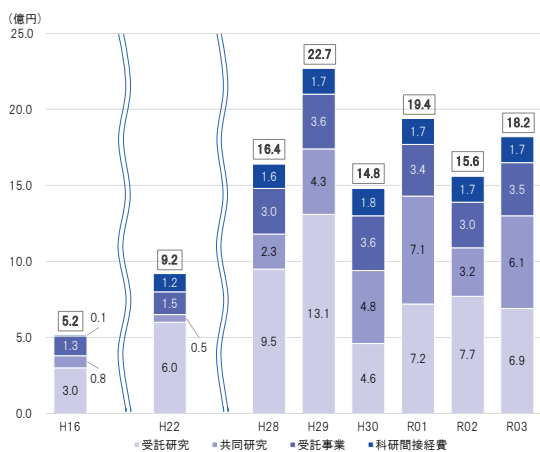
3 外部資金収入 『外部資金の獲得に向けた取り組みを継続』

受託研究収入は、主に、平成25年度にスタートしたCOI（Center of Innovation：文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム」）事業の継続により高い水準で推移しています。本事業では、「岩木健康増進プロジェクト」を柱として、健康ビッグデータに基づく“健康長寿社会”の実現に向けた取り組みを進めてきました。COI事業への国からの支援は、令和3年度をもって一旦終了となりましたが、令和4年度よりCOI拠点のさらなる飛躍を促進するための研究成果展開事業に採択されており、これまでに得られた成果の最大化に向け、引き続き取り組みを推進することとしています。

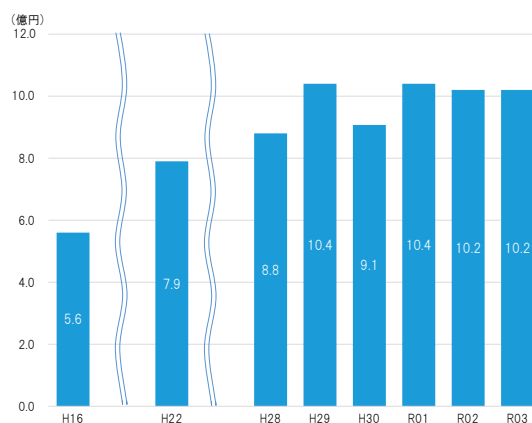
また、本学のCOI事業に賛同する企業からの資金提供を受け、平成28年度以降、複数の共同研究講座が設置されたことにより、共同研究収入も増加の傾向となっています。

寄附金収入では、大学の財政基盤の充実強化を図るため、平成27年7月に「弘前大学基金」を創設し、地域の企業訪問やクラウドファンディングなどを通じた積極的な募金活動を行ってきたことにより、多くの財政的な支援を得ることができました。

受託研究収入等の推移



寄附金収入の推移

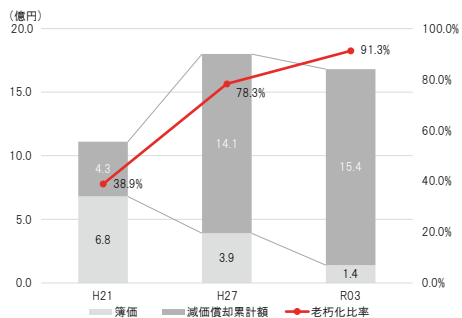


4 教育研究設備 『新規購入・更新のための予算確保が課題』

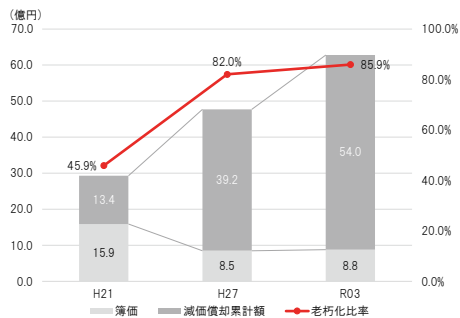
大学における教育研究設備は、教育研究サービスを高い水準で提供するための重要な資源の一つです。

近年では、設備整備に関する国からの予算措置は厳しい状況にあることから、多様な財源を活用した設備・機器の整備計画の策定や、大学全体での戦略的な導入・更新・共用等を図る仕組みを一層強化していくことが必要となっています。

教育用設備の推移



研究用設備の推移



05 | 財務

②財務指標

以下に示す財務指標は、国立大学法人の財政状態や運営状況を客観的に分析するための基礎となるもので、本学の特性を示すこれらの指標を同規模大学（※1）のものと比較することにより、財政面における本学の現状を把握することができます。

同規模大学の平均と比べた場合、13の項目のうち8項目が平均を上回っており、昨今の厳しい財政状況においても、比較的良好な財務状況にあるということが言えます。

項目	指標説明	計算式	同規模大学 平均 [令和2年度]	弘前大学		傾向 (※2)
				[令和2年度]	[令和3年度]	
流動比率	短期的な支払能力を示す指標 (高いほど良好)	流動資産÷流動負債	133.2%	141.9%	151.1%	▲
自己資本比率	総資産における自己資本の 割合を示す指標 (高いほど良好)	自己資本÷(負債+自己資本)	56.2%	57.4%	55.9%	▲
人件費比率	業務費における人件費の 割合を示す指標 (低いほど良好)	人件費÷業務費	49.7%	47.1%	44.8%	▲
一般管理費比率	業務費に占める一般管理費の 割合を示す指標 (低いほど良好)	一般管理費÷業務費	2.3%	2.3%	2.5%	▲
外部資金比率	経常収益に占める外部資金の 割合を示す指標 (高いほど良好)	(受託研究収益+共同研究収益 +受託事業等収益 +寄附金収益) ÷経常収益	5.2%	5.1%	5.6%	▲
業務費対研究経費比率	業務活動のうち、研究に使用 される経費の大きさを示す 指標 (高いほど良好)	研究経費÷業務費	4.3%	3.5%	4.3%	▲
業務費対教育経費比率	業務活動のうち、教育に使用 される経費の大きさを示す 指標 (高いほど良好)	教育経費÷業務費	4.4%	4.7%	4.8%	▶
学生当教育経費	学生一人当たりの教育経費を 示す指標 (高いほど良好)	教育経費÷学生数	252千円	272千円	286千円	▲
教員当研究経費	教員一人当たりの研究経費を 示す指標 (高いほど良好)	研究経費÷教員数	2,075千円	1,531千円	1,982千円	▲
経常利益比率	経常収益に対する経常利益の 割合を示す指標 (高いほど良好)	経常利益÷経常収益	2.8%	4.5%	3.0%	▲
診療経費比率	人件費を除く診療活動に要する 経費が病院収益に占める割合を 示す指標 (低いほど良好)	診療経費÷附属病院収益	67.8%	70.3%	70.4%	▶
病床当附属病院収益	病床一床当たりの病院収益を 示す指標 (高いほど良好)	病院収益÷病床数	34,543千円	35,277千円	37,610千円	▲
附属病院収入対 長期借入金返済率	現金ベースの附属病院収入に 対する借入金返済額の割合を 示す指標 (低いほど良好)	(長期借入金返済+大学改革 支援・学位授与機構納付金) ÷附属病院収入(全体)	8.1%	4.9%	4.7%	▲

※1…文部科学省による財務分析上の分類で、医科系学部とその他の学部で構成され、学生収容定員が1万人未満、学部数が10学部未満である以下の24大学が該当します。

弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

※2…前年度と比較し、変動率が±2%以内の場合には▶を、これを超えて向上している場合には▲を、低下している場合には▲を付しています。

③令和3事業年度財務諸表

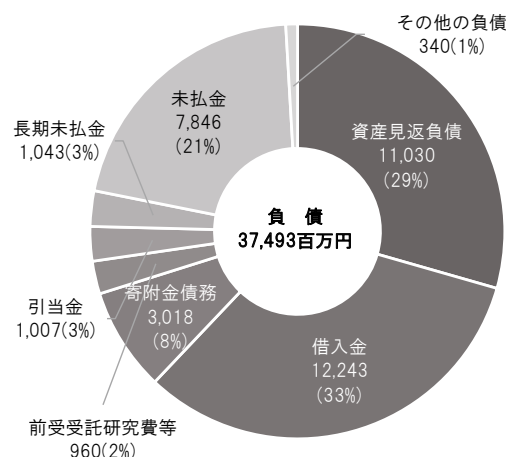
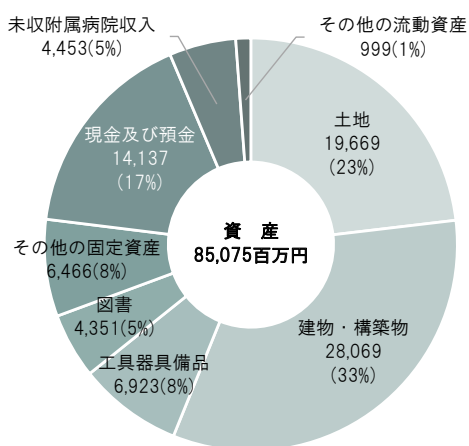
貸借対照表 [基準日における財政状態]

【令和4年3月31日】

(単位：百万円)

資産の部	令和2年度	令和3年度	増減	負債の部	令和2年度	令和3年度	増減
I. 固定資産	61,416	65,483	4,067	I. 固定負債	20,762	24,525	3,763
1. 有形固定資産	61,186	65,269	4,083	資産見返負債	10,259	11,030	771
土地	19,669	19,669	-	長期前受託研究費等	561	388	△173
建物	27,095	26,660	△435	長期借入金	7,505	11,164	3,659
構築物	1,473	1,409	△64	引当金	771	861	90
工具器具備品	6,640	6,923	283	長期未払金	1,622	1,043	△579
図書	4,343	4,351	8	その他	41	37	△4
その他	1,964	6,255	4,291	II. 流動負債	13,573	12,967	△606
2. 無形固定資産	126	108	△18	運営費交付金債務	200	-	△200
特許権	8	14	6	寄附金債務	2,935	3,018	83
ソフトウェア	106	82	△24	前受託研究費等	900	572	△328
その他	10	11	1	前受金	402	3	△399
3. 投資その他の資産	103	104	1	借入金	1,113	1,079	△34
投資有価証券	100	100	0	未払金	7,544	7,846	302
その他	2	4	2	引当金	157	146	△11
II. 流動資産	19,262	19,591	329	その他	318	300	△18
現金及び預金	12,520	14,137	1,617	負債合計	34,336	37,493	3,157
未収学生納付金収入	108	101	△7	純資産の部			
未収附属病院収入	4,351	4,453	102	I. 資本金	25,532	25,532	-
有価証券	967	-	△967	II. 資本剰余金	5,993	6,100	107
たな卸資産	39	45	6	III. 利益剰余金	14,815	15,949	1,134
医薬品及び診療材料	291	457	166	純資産合計	46,341	47,581	1,240
その他	983	396	△587	負債・純資産合計	80,678	85,075	4,397
資産合計	80,678	85,075	4,397				

(単位未満を切り捨てて表示しているため、合計額が合わない場合があります。)



貸借対照表のポイント

[資産の部]

◇病棟の建設に係る前払金に伴う建設仮勘定の増加 (有形固定資産-その他)

[負債の部]

◇病棟新営や医療器械整備のための資金を借り入れたことに伴う借入金の増加 (固定負債-長期借入金)

05 | 財務

③ 令和3事業年度財務諸表

損益計算書 [一会計期間における運営状況]

【令和3年4月1日～令和4年3月31日】

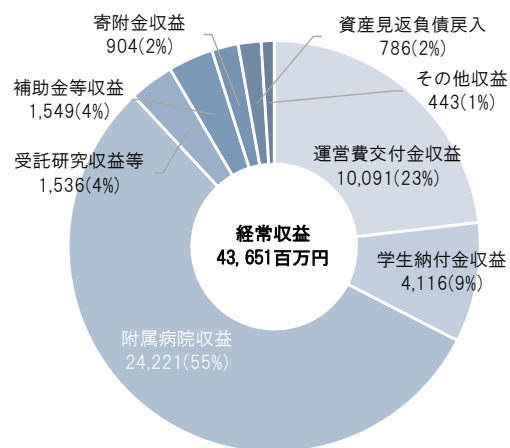
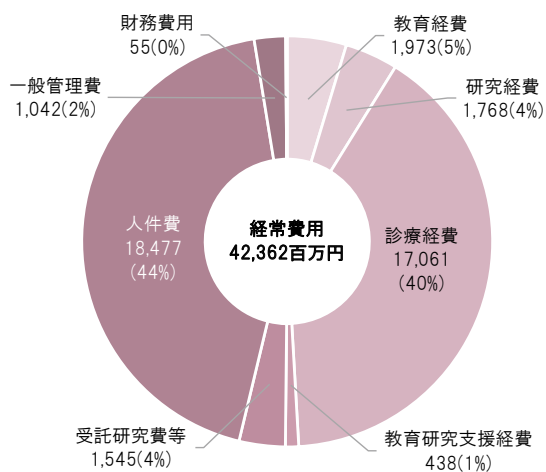
(単位：百万円)

経常費用	令和2年度	令和3年度	増減	経常収益	令和2年度	令和3年度	増減
教育経費	1,855	1,973	118	運営費交付金収益	10,406	10,091	△ 315
研究経費	1,376	1,768	392	学生納付金収益	4,055	4,116	61
診療経費	15,975	17,061	1,086	附属病院収益	22,719	24,221	1,502
教育研究支援経費	397	438	41	受託研究収益等	1,320	1,536	216
受託研究費等	1,328	1,545	217	補助金等収益	1,807	1,549	△ 258
人件費	18,605	18,477	△ 128	寄附金収益	833	904	71
一般管理費	927	1,042	115	資産見返負債戻入	765	786	21
財務費用	48	55	7	その他収益	504	443	△ 61
経常費用合計	40,516	42,362	1,846	経常収益合計	42,414	43,651	1,237

《当期総損益》

	令和2年度	令和3年度	増減
経常利益	1,897	1,289	△ 608
臨時損益	△ 179	254	433
当期純利益	1,717	1,543	△ 174
目的積立金取崩額	128	386	258
当期総利益	1,846	1,930	84
うち目的積立金相当額	795	843	48

(単位未満を切り捨てて表示しているため、合計額が合わない場合があります。)



損益計算書のポイント

〔経常費用〕

◇手術件数の増加、材料費、外注費及び光熱費などの増加に伴い、診療経費が法人化以降最大

〔経常収益〕

◇患者数や高額医療の増加、施設基準の上位算定及び新規算定加算などに伴い、附属病院収益が法人化以降最大

当期総利益のうち、目的積立金相当額8億4千3百万円と、令和3年度末時点の目的積立金未使用額11億3千1百万円を合わせた19億7千5百万円は、令和4年度から始まる第4期中期目標期間における中期計画に定める「積立金の使途」に従い、病院機能強化に向けた病棟施設改修及び医療機器整備事業の一部に充てることとしています。

キャッシュ・フロー計算書

【令和3年4月1日～令和4年3月31日】

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間における資金（キャッシュ）の流れ（フロー）に焦点を当てて、業務活動、投資活動、財務活動の目的別に、どれだけ資金を投入したか、あるいは獲得したかを示すものです。

（単位：百万円）

項目	説明	令和2年度	令和3年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	通常の業務活動（投資・財務活動以外）の取引に係る収入と支出の差額	5,520	4,025	△ 1,495
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	資産の取得及び売却等の取引に係る収入と支出の差額	△ 1,305	△ 5,316	△ 4,011
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	資金の調達及び返済の取引に係る収入と支出の差額	185	2,907	2,722
IV 資金増加額	当期中の現預金（拘束性のない手元現金・当座預金・普通預金）増減額	4,401	1,616	△ 2,785
V 資金期首残高	前期末現預金残高	8,119	12,520	4,401
VI 資金期末残高	当期末現預金残高	12,520	14,137	1,617

（単位未満を切り捨てて表示しているため、合計額が合わない場合があります。）

国立大学法人等業務実施コスト計算書

【令和3年4月1日～令和4年3月31日】

業務実施コスト計算書は、一会計期間の業務運営を行う上で、国（納税者である国民）が負担したコストを示すもので、企業会計にはない国立大学法人特有の計算書です。

（単位：百万円）

項目	説明	令和2年度	令和3年度	増減
業務費用	損益計算書上の費用から自己収入等に係る収益を控除した額	11,166	11,010	△ 156
（1）損益計算上の費用		40,718	42,409	1,691
（2）（控除）自己収入等		△ 29,552	△ 31,399	△ 1,847
損益外減価償却相当額 等	損益計算書には含まれない実質的に国が負担する費用	1,080	1,118	38
引当外賞与・退職給付増加見積額		161	217	56
機会費用	国等の資産を使用する上で国立大学法人が免除・軽減されている費用	35	63	28
国立大学法人等業務実施コスト		12,443	12,410	△ 33

（単位未満を切り捨てて表示しているため、合計額が合わない場合があります。）

100円昼食弁当・夕食の販売 累計約11万4,000食

コロナ禍によりアルバイト収入や仕送りが減り経済的に困窮する学生にあたたかいご飯を食べさせてあげたい、そんな思いから令和2年6月にスタートした「100円ごはん」の販売が、累計で約11万4,000食に達しました。学生からの評判も良く、継続を望む声が多かったことから、令和4年度も継続して実施しています。



05 | 財務

④ 寄附金による事業のご紹介

弘前大学基金

本学では、大学の財政基盤の充実強化を図り、学生支援、教育研究活動等の一層の充実を図ることを目的に、平成27年7月に「弘前大学基金」を創設しました。本基金を有効に活用し、地域を志向した大学改革を進め、地域活性化の中核的拠点としての本学の姿を確固たるものとし、イノベーション創出と人材育成を通じて本学の活動成果を地域社会へ還元することを目指しています。

主な事業・目的

1. 学生への支援事業
2. 教育研究活動への支援事業
3. 国際交流活動への支援事業
4. 社会貢献活動への支援事業
5. その他大学全体に対する支援事業
6. 特定基金「弘前大学修学支援基金」
7. 特定基金「弘前大学研究等支援基金」

基金を活用した主な事業

■ 100円昼食弁当・夕食の販売

新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に困窮する学生の食生活支援、栄養面でのサポートと地元弁当販売店利用による地域事業の活性化を目的として、450円相当の昼食弁当・夕食を100円で提供する取り組みを実施しました。令和3年度は約71,000食を提供し、コロナ禍で困窮する学生を食で支援しました。



■ 「大学発地域振興券」(学生生活支援チケット)の発行

「大学コンソーシアム学都ひろさき」加盟の4大学(弘前大学・弘前学院大学・柴田学園大学・弘前医療福祉大学)の学生が2,000円で購入できる5,000円分の地域振興券を弘前大学が中心となり発行しました。地域振興券は、市内のスーパーや薬局などで利用できるもので、弘前の大学生と地元商店の双方の支援を行いました。



■ 県内の地元産品を活用した食支援を実施

包括連携協定を締結している青森県内15市町村の地元産品を「地元産品のパッケージによる提供」と「学生食堂を通じた提供」の2つの方法により学生に提供しました。この取り組みにより、学生に対する食支援の実現のみならず、地元産品を活用することで各市町村の生産者・企業等への支援にもつながっています。



■ 弘前大学生生活支援奨学金(緊急貸与)

新型コロナウイルスに関係する様々な要因により経済的に困窮した学生に対し、奨学金の貸与を行いました。貸与額や貸与回数の上限を撤廃し、日本学生支援機構の奨学金が停止となった学生や、アルバイト収入が得られなくなった学生へ、生活費及び学費等の支援を行いました。



弘前大学基金への寄附方法や税額控除等についてWEBページからご確認いただけます。また、WEBページから寄附の申込み手続きができます。詳しくはURL (<https://fund.hirosaki-u.ac.jp/>) または、右記のQRコードからご確認ください。



もっと知りたい あんな弘大、こんな弘大

弘前大学公式ウェブマガジン「HIROMAGA(ヒロマガ)」。
弘前大学の人、イベント、弘大生の生活など、公式サイトには載っていないリアルな情報を発信。
様々な切り口で弘前大学の魅力をお伝えしています。



hiromaga.com

先生インタビュー

大学紹介

ひろだい LIFE

卒業生インタビュー

在学生インタビュー

ひろだい INFO



先生インタビュー

過去を知り、未来を見すえる
日本語の歴史研究

教育学部 学校教育教員養成課程
国語教育講座 教授/弘前大学理事
郡 千寿子

2021.12.24



大学紹介

青森発!「ポケットエコー」の研究開発を世界へ
へぎ地医療×知的財産×事業を
1人3役で切り開く近未来

弘前大学医学部附属病院総合診療部
小林 只 学内講師

2022.3.10



ひろだい LIFE

弘前大学 一日の過ごし方
～日々の学びとキャンパスライフ～

2021.11.11



卒業生インタビュー

合同会社SFS代表・
ひろさき芸術舞踊実行委員会委員長

弘前大学農学生命科学部
生物生産科学科卒
岩淵 伸雄さん

2021.12.6



在学生インタビュー

大学院で風力発電を研究

地域共創科学研究科2年
(理工学部自然エネルギー学科卒)
笹沼 菜々子さん

2021.7.13



ひろだい INFO

弘前大学の桜2020

2020.5.28



